キッズニュース

「県立美術館」誕生から30年!!

「落ち穂拾い、夏」

「種をまく人」

ー開館30周年を記念して、芝生の丘に「ザ ビッグ・アップルNo.45」登場！ー

ミレーの作品によって全国的に有名な山梨県立美術館は、年間、約30万人の来館者が訪れます。昭和53年11月3日に開館したこの美術館は、今年の秋に開館30周年を迎えます。

これを記念して、本県出身で現在ニューヨークを中心に活躍している現代美術作家 佐藤正明さんがデザインした「ザ ビッグ・アップルNo.45」が、県立美術館と県立文学館を結ぶ「芸術の森公園」の芝生の丘に設置されます。

「山梨県立美術館」のあゆみ

山梨県立美術館は、「山梨県」が誕生し100年たったことを記念して、昭和47年に建設が決定されました。そして、美術鑑賞や創作の場、さらには憩いの場として「皆さんが気軽に楽しめる美術館」となるように計画され、昭和53年11月開館しました。

また、展示される美術作品として、世界的名画であるJ＝F・ミレーの「種をまく人」「夕暮れに羊を連れ帰る羊飼い」などが購入されました。

同時に、本県出身の望月春江や本県にゆかりのある川崎小虎の作品など、多くの作品が寄贈されました。

来年1月には、ミレーの新しい作品と会おう！

「ミレーの美術館」として、日本中の皆さんに愛されてきた県立美術館。来年1月には、2階にミレー館をオープン。新たに購入したものを加えたミレーの作品、バルビゾン派作家の作品をゆったりと見て、そして感じてくださいね。

ミレーは1814年生まれ。1830年から1870年頃にかけて、フランスのバルビゾン村その周辺で、自然風景や農民の生活をありのままに描いていた画家たちのことをバルビゾン派といいます。ミレーは、その中心的な存在でした。

大地とともに生きる農民の姿を描いたミレーの作品は、農業が盛んである日本で特に親しまれています。

J=F・ミレー
（ジャン＝フランソワ・ミレー）

緑豊かな芸術の森に囲まれた県立美術館は、もっと多くの人々に愛される「美術館」となるように、皆さんと一緒に成長していきます。

今年の夏は、美術館で「やなせたかしの世界・アンパンマン」と

30周年の今年は、ミレーの作品や皆さんがもう一度見たい作品などを集めた「県美30年の歴史 わたしが選ぶこの一点」など多くの企画展が開催されます。夏休み（7月26日～8月31日）には、皆さんの大好きなやなせたかしの「アンパンマン」の絵が見られますよ。

ぼくもわたしも「芸術家」！

県立美術館は、絵の鑑賞だけでなく、皆さんが美術に親しみ、積極的に参加できる多くの催しも行っています。お友達と一緒に遊びにきてくださいね。

つくって、遊べる「美術館」

参加型教育美術展「新みなび」では、大人や子ども、障害をもつ方、アーティストなどが県内各地で行われるワークショップに自由に参加し、みんなで一緒に展覧会を開きます。また、リサイクル品を使って造形活動を楽しむ「つくろう!あそぼう!造形広場」では、想像力を生かし自分の好きな物をつくります。

「美術館」で音楽鑑賞

県立美術館のロビーでは、毎週日曜日に、「『音楽＆美術』で楽しもう!」をテーマにロビーコンサートを行っています。ピアノ、バイオリンなどの奏でる音が、皆さんを芸術の世界に引き込んでくれます。

芝生の上におかれた「ザ ビッグ・アップル No.45」（イメージ図）

ビッグ・アップルは、本県出身でアメリカのニューヨークを中心に活躍する現代美術作家 佐藤正明さんがデザインしたものです。作品は、佐藤さんの代表的なシリーズで、ニューヨークの象徴といわれるリンゴを題材にしたステンレススチール製の彫刻です。

4月3日には、芸術の森公園の芝生の丘で除幕式が行われます。芝生の丘から転がり落ちそうに置かれた「ビッグ・アップル」。ぜひ、見にきてね。

芝生の丘に直径3mの

「ビッグ・アップル」登場！

「ビッグ・アップル」をデザインした佐藤正明さんにインタビュー

芸術は感じるもの。輝く大きな「ビッグ・アップル」にまず驚いてください。

まずは見ること、感じることが大切

芸術は、つくる方も、見る方も自由に楽しむものです。私が取り組んでいる、今までになかったものをつくり出そうという「現代アート」はまさにそうです。皆さんが、ある作品を見たとき、「この作品は何を表現しているのだろう」なんて思う必要はありません。

まずは、作品を見る。そしておもしろいとか、つまんないとか、ここがいいなとか何かを感じることが大切です。そのとき、何かをひとつでも感じれば、芸術を楽しんでいることになるのです。

「ポップアート」との出会い

私は幼い頃から絵を描くことが好きでした。今でも覚えていますが、「ああ、絵描きになりたい」と思ったのは、小学校4年生のときです。写生大会などでは、いつも一番でした。幼いながらにも、絵を描くには、描きたいものをよく見ることが大切だとわかっていました。勉強はまったくダメでしたけど、絵に対する思いはその後もずっと変わらないで、絵の道をまっすぐあゆみ続けてきました。

あるとき、それまでにない新しいスタイルの「ポップアート」という絵を見て、すごく感激しました。そして「こんな絵を描く人たちと一緒に展覧会をしたい」と思い、山梨を飛び出して、ロンドン、そしてニューヨークに行きました。

県立美術館に置かれる「ビッグ・アップル」は、こうして外国に行ったからこそ生まれた作品です。

佐藤正明作『ニューススタンド』

今にも転がり落ちそうな大きくてピカピカに輝くリンゴ

この作品は、今まで制作してきた中で、一番大きな「ビッグ・アップル」です。直径が3mもあるんですよ。穴の数はいくつあると思いますか。全部で365個です。穴を開け終えたとき、偶然にも「1年365日」とぴったり同じ数になり、造形の神様が味方してくれたんだなと思いました。また、彫刻は普通、台の上に置かれますが、この「ビッグ・アップル」は、斜面を今にも転がり落ちそうに斜めの角度で直接地面に設置されます。この丘は、「ビッグ・アップル」にぴったりの場所だと思います。

皆さんが、大きくてピカピカに輝くリンゴを見て、驚いたり、自由にいろんなことを感じてもらえたら、とてもうれしいです。

Profile

プロフィール
現代美術作家 佐藤正明さん

甲府市生まれ。ニューヨーク在住。ヘザリー美術学校（ロンドン）やプルックリン美術館美術学校（ニューヨーク）、プラッド・グラフィック・センター（ニューヨーク）などを修了。ロンドンを経て、1970年からニューヨークで制作活動を続けている。話題となった「サブウェイ」「ニューススタンド」のシリーズ作を中心に平成2年「ニューヨーク20年佐藤正明展」を山梨県立美術館で開催。

お問い合わせ先

山梨県立美術館
〒400-0065 甲府市貢川1-4-27
☎055-228-3322 FAX055-228-3324